１. 届出の対象

本解説内での「マニュアル」とは、国立がん研究センター作成の「全国がん登録　届出マニュアル　2022 」を指します

届出の必要ながんの種類

マニュアル
Ｐ４

１.悪性新生物及び上皮内がん

２.髄膜又は脳、脊髄、脳神経その他の中枢神経系に発生した腫瘍
（1.に該当するものを除く。）

脳、脊髄は
良性腫瘍も登録

３.卵巣腫瘍（次に掲げるものに限る。）
境界悪性漿液性乳頭状のう胞腫瘍
境界悪性漿液性のう腺腫
境界悪性漿液性表在性乳頭腫瘍
境界悪性乳頭状のう胞腺腫
境界悪性粘液性乳頭状のう胞腺腫
境界悪性粘液性のう胞腫瘍
境界悪性明細胞のう胞腫瘍

４.消化管間質腫瘍（GIST 1.に該当するものを除く。）
※良性GIST（性状/０）は届出対象外

届出の必要な患者　判断チャート

マニュアル
Ｐ５

入院患者だけでなく
外来のみの患者も、
鳥取県民だけでなく
自施設で診断・治療
した患者すべて届出
が必要です！

患者はがんの診断・治療に来た？
（術後フォロー、緩和ケア、検査のみも含む）

- はい → **患者は当院初診である？**
- いいえ → 届出不要

患者は当院初診である？

- はい → **診断日が2016年1月1日以後？**
- いいえ → **以前の受診疾患は？**

以前の受診疾患は？

- がん → **今回の受診は？**
- がん以外 → **診断日が2016年1月1日以後？**

今回の受診は？

- 以前と異なるがん(多重がん) → **診断日が2016年1月1日以後？**
- 以前のがんの継続診療 → 届出不要

診断日が2016年1月1日以後？

- はい → 届出要
- いいえ → 地域がん登録に提出

多重がん

マニュアル
Ｐ５

■ がん登録の対象は腫瘍です

２つ以上の独立した届出対象の原発性のがんが発生した場合を
多重がんと定義し、腫瘍の数に応じた届出が必要になります。

【例1】
自施設において
胃癌と大腸癌
を治療した。

↓

胃癌と大腸癌は別の原発性のがんなので胃癌と大腸癌
２つ届出

【例2】
３年前自施設において、
胃癌の手術を行った患者が、
今回自施設にて原発性肺癌と
診断された。

↓

胃癌と肺癌は別の原発性のがんなので、胃癌(３年前)と肺癌(今回) **２つ届出**

【例3】
３年前自施設において、
胃癌の手術を行った患者が、
今回自施設にて胃癌の肺転移
と診断された。

↓

胃癌と肺転移は同じがんが転移したものなので、胃癌(３年前)のみ届出。
今回届出必要なし

がん登録における「診断」と「治療」

マニュアル
P 5

■ がん登録では必ずしも病理学的な確定診断を要しません

画像診断、血液検査、尿検査、肉眼的診断、及び臨床診断により、 医師の総合的な判断で“がん”と診断された時点で届出の対象となります。
ただし、<u>がん疑い</u>は届出対象外です。

■ がんによる症状の緩和・軽減の為に行われた治療も届出対象

原発巣・転移巣のがん組織に対して行われた治療(経過観察も含む)のほかにがん組織に対するものではなくても、がんによる症状の緩和・軽減のために行われた特異的治療も届出の対象となります。

がんの既往があるだけで、がんの診断または治療に関わっていなければ届出対象外

【例】３年前に他施設で胃癌の手術を行った患者が、今回自施設に受診し、椎間板ヘルニアと診断されヘルニアの治療を行った。

自施設では、胃癌に関わっていないので届出対象外！

がん登録における「転移」と「再発」

マニュアル
P 5

■ 転移又は再発の段階で、初診であれば届出が必要です

この場合、転移又は再発に関する情報ではなく、原発性のがんに関する情報を届け出ます。

【例1】
3年前他施設にて、胃癌の手術を行った患者が、今回自施設に受診し、胃癌肺転移と診断された。

↓

自施設にとって初診なので、原発の胃癌を届出。

【例2】
3年前他施設にて、胃癌の手術を行った患者が、今回自施設に受診し、胃癌の再発と診断された。

↓

自施設にとって初診なので、原発の胃癌を届出。

【例3】
3年前自施設にて、胃癌の手術を行った患者が、今回再び自施設に受診し、胃癌の再発と診断された。

↓

自施設にとって初診ではないので、今回は届出必要なし。

2. 届出項目について

本解説内での「マニュアル」とは、国立がん研究センター作成の
「全国がん登録　届出マニュアル　2022 」を指します

チェックすると入力できるようになります

☑ 全国がん登録届出票①

患者基本情報

施設情報

個人識別情報

腫瘍情報

腫瘍情報

診断情報

進行度

初回の治療情報

初回治療情報

届出時の状況

死亡日

その他

備考

①病院等の名称			13009__東京都___病院
②診療録番号			1 2 3 4 5 (全半角16文字)
③カナ氏名			シ コクリツ (全角カナ10文字) メイ タロウ (全角カナ10文字)
④氏名			氏 国立 (全角10文字) 名 太郎 (全角10文字)
⑤性別			☑ 1. 男性 ☐ 2. 女性
⑥生年月日			☑ 0. 西暦 ☐ 1. 明 ☐ 2. 大 ☐ 3. 昭 ☐ 4. 平 ☐ 5. 令 年 月 日
⑦診断時住所	都道府県選択		東京都 (全半角40文字)
	市区町村以下		中央区築地
腫瘍の種類	⑧側性		☐ 1. 右 ☐ 2. 左 ☐ 3. 両側 ☑ 7. 側性なし ☐ 9. 不明
	⑨原発部位	大分類	脳、脊髄、脳神経その他の中枢神経系
		詳細分類	大脳 C71.0
	⑩病理診断	組織型・性状	海綿状血管腫 9121/0
	⑪診断施設		☑ 1. 自施設診断 ☐ 2. 他施設診断
診断情報	⑫治療施設		☐ 1. 自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明 ☑ 2. 自施設で初回治療を開始 ☐ 3. 他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続 ☐ 4. 他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診 ☐ 8. その他
	⑬診断根拠		☑ 1. 原発巣の組織診 ☐ 2. 転移巣の組織診 ☐ 3. 細胞診 ☐ 4. 部位特異的腫瘍マーカー ☐ 5. 臨床検査 ☐ 6. 臨床診断 ☐ 9. 不明
	⑭診断日		☑ 0. 西暦 ☐ 4. 平 ☐ 5. 令 年 月 日
	⑮発見経緯		☑ 1. がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例 ☐ 3. 他疾患の経過観察中の偶然発見 ☐ 4. 剖検発見 ☐ 8. その他 ☐ 9. 不明
進行度	⑯進展度・治療前		☑ 400. 上皮内 ☐ 410. 限局 ☐ 420. 領域リンパ節転移 ☐ 430. 隣接臓器浸潤 ☐ 440. 遠隔転移 ☐ 777. 該当せず ☐ 499. 不明
	⑰進展度・術後病理学的		☑ 400. 上皮内 ☐ 410. 限局 ☐ 420. 領域リンパ節転移 ☐ 430. 隣接臓器浸潤 ☐ 440. 遠隔転移 ☐ 660. 手術なし・術前治療後 ☐ 777. 該当せず ☐ 499. 不明
初回治療	観血的治療	⑱外科的	☑ 1. 自施設で施行 ☐ 2. 自施設で施行なし ☐ 9. 施行の有無不明
		⑲鏡視下	☑ 1. 自施設で施行 ☐ 2. 自施設で施行なし ☐ 9. 施行の有無不明
		⑳内視鏡的	☑ 1. 自施設で施行 ☐ 2. 自施設で施行なし ☐ 9. 施行の有無不明
		㉑観血的治療の範囲	☑ 1. 腫瘍遺残なし ☐ 4. 腫瘍遺残あり ☐ 6. 観血的治療なし ☐ 9. 不明
	その他治療	㉒放射線療法	☐ 1. 自施設で施行 ☑ 2. 自施設で施行なし ☐ 9. 施行の有無不明
		㉓化学療法	☐ 1. 自施設で施行 ☑ 2. 自施設で施行なし ☐ 9. 施行の有無不明
		㉔内分泌療法	☐ 1. 自施設で施行 ☑ 2. 自施設で施行なし ☐ 9. 施行の有無不明
		㉕その他治療	☐ 1. 自施設で施行 ☐ 2. 自施設で施行なし ☑ 9. 施行の有無不明
㉖死亡日			☐ 0. 西暦 ☐ 4. 平 ☐ 5. 令 年 月 日
備考			(全半角128文字)

① 病院等の名称

マニュアル
Ｐ２４

■ 届出をする病院等の名称を入力してください

② 診療録番号

マニュアル
Ｐ２５

■ 病院等で患者に固有であたえられている
番号・記号 (カルテ番号・ＩＤ) を入力してください

■ 患者情報確認の際、個人情報保護のため、診療録番号で
各病院へ問い合わせすることがあります

③ カナ氏名

マニュアル
Ｐ２６

■ 氏名に対応する読みのカタカナを入力してください

④ 氏　名

マニュアル
Ｐ２７

■ 原則として住民登録されている氏名を入力してください

■ ミドルネーム、通称が判明している場合は備考欄でお知らせください

■ 入力できない漢字は●に置き換え、備考欄でお知らせください

■ 氏名不詳の場合、氏・名それぞれに全角ハイフン(－)のみを入力してください
（この場合、カナ氏名欄は空白可）

③カナ氏名　【例】	シ	クサナギ	(全角カナ10文字)	メイ	タロウ	(全角カナ10文字)
④氏名	氏	草●	(全角10文字)	名	太郎	(全角10文字)

備考	氏名の●＝弓へんに旧字体の“前”に刀

⑤ 性　別

マニュアル
Ｐ２８

■ 原則として住民登録されている性別を入力してください

⑥ 生年月日

マニュアル
Ｐ２９

■ 病院等の診療録等に記録されている生年月日を入力してください

■ 生年月日不明の場合、9999年99月99日と入力してください

⑦ 診断時住所

マニュアル
Ｐ３０

■ がん診断時に居住していた住所を入力してください

■ 届出時の最新住所が診断時住所とは異なる場合、備考欄にご記入ください

【例】 ⑦診断時住所	都道府県選択	鳥取県 (全半角40文字)
	市区町村以下	鳥取県鳥取市浜坂10丁目10-10カニカニマンション99号室
備考		鳥取県東伯郡琴浦町大字浦安9999番地へ転居

■ 住所不明の場合、「住所不明」で届出してください

■ 都道府県名から番地、アパート名まで、郡、大字も省略せず入力してください

例えば…　湖山町南１丁目・賀露町北２丁目・米子市上後藤３丁目・三朝町大字赤松など

⑧ 側　性

マニュアル
Ｐ３１

⑧側性	☐ 1. 右　☐ 2. 左　☐ 3. 両側　☐ 7. 側性なし　☐ 9. 不明

■ 原発部位に 側性のある臓器 の場合、右側または左側を選択してください

マニュアルP.31
「側性のある臓器」参照

■ 原発部位に側性のない場合は「7.側性なし」を選択してください

■ 卵巣腫瘍(同じ組織形態の卵巣腫瘍)、
腎芽腫（ウィルムス腫瘍8960/3）、
網膜芽細胞腫（9510-9512/3)のみ「3.両側」を選択できます

両側を選択できるのは
この３つの臓器のみ

こんな
場合は…？

【例】
原発性の右乳癌と
原発性の左乳癌と
診断された。

↓

左右それぞれ原発のため、
届出は２つ

【例】
原発性の右乳癌が
左乳房に転移した。

↓

左右同じがんなので、
届出は右乳癌1つのみ

⑨ 原発部位

マニュアル
Ｐ３２

■ 診断名ではなく、届け出るがんの原発部位を選択してください

■ 原発部位に関し補足する情報があれば備考欄に入力してください

こんな
場合は…？

診断名	原発部位	備　考
転移性肺癌 (大腸癌からの肺転移)	横行結腸	全国がん登録では 転移部位は 届出は不要です
転移性肺癌 (転移を伴う肺癌)	肺下葉	
転移性肺癌 (原発部位不明)	原発不明	
悪性リンパ腫	胃体部	節外性では原発の臓器
悪性リンパ腫	頸部リンパ節	節性では原発のリンパ節
慢性骨髄性白血病	骨髄	ICD-O-3では白血病の原発部位はすべて「骨髄」

“原発不明
(C80.9)”の届出が
必要です！

⑩ 病理診断

マニュアル
Ｐ３４

⑩病理診断	組織型・性状	

■ 細胞診、生検、手術の病理学的診断に基づき、
届け出る腫瘍の形態を選択してください。
※2023年1月以降はICD-O-3.2で届出してください。

■ ６桁目の分化度、細胞型、補足する情報は備考欄へ記入してください。

こんな
場合は…？

Q.「生検していないので病理
組織報告書がありません…」

A. 診断根拠が顕微鏡的（病理学的）
診断でないときに用いてよい
形態コードを選択してください。

マニュアルP.３６
を確認して
ください

Q.「他院手術後のフォローで当院に
来院されたので、詳しい病理組織
がわかりません…」

A. 紹介状などからわかる
病理組織診断名を選択してください。
その場合、⑬診断根拠は「組織診」
などを選択してください。

⑪ 診断施設

マニュアル
P３７

⑪診断施設	☐ 1. 自施設診断　☐ 2. 他施設診断

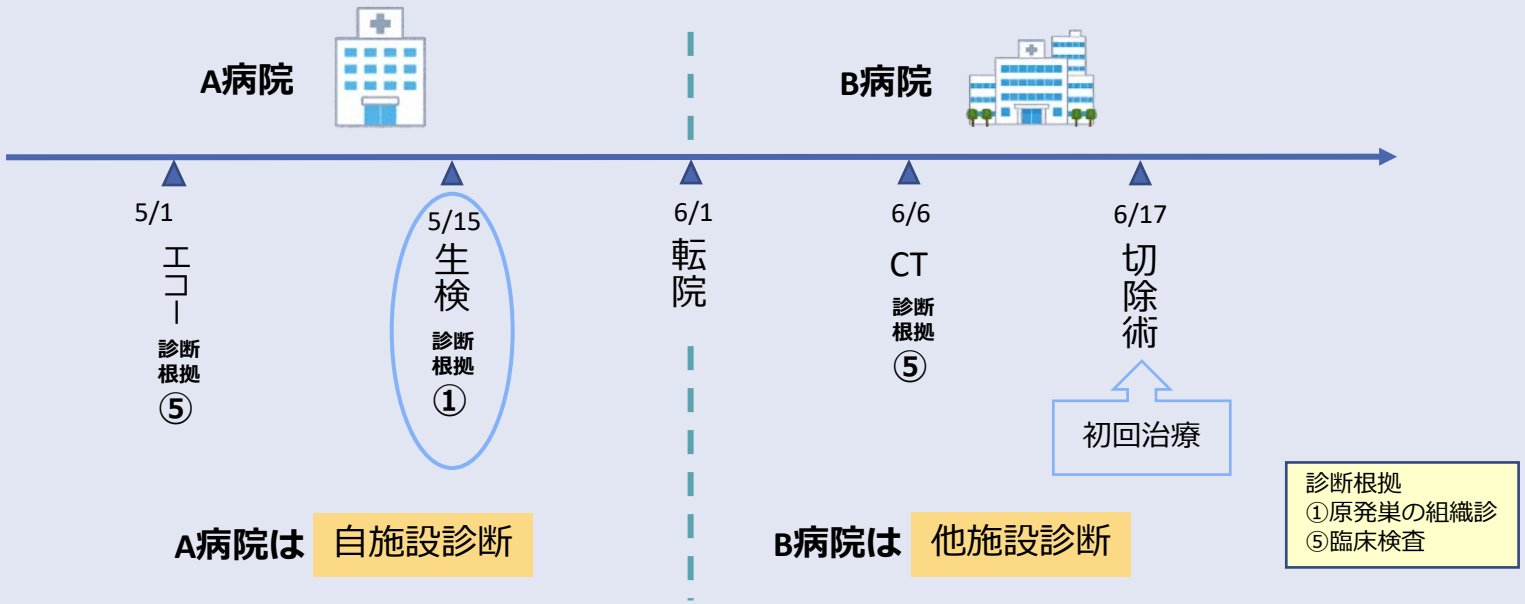
■ 当該がんの初回治療前に行われた、診断目的の検査のうち、「がん」と診断する根拠となった検査が、自施設に受診後に実施された場合

1．自施設診断
を選択してください。

■ 当該がんの初回治療前に行われた、診断目的の検査のうち、「がん」と診断する根拠となった検査が、自施設に受診前に実施された場合

2．他施設診断
を選択してください。

【例】　A病院で診断してから治療目的でB病院に転院した場合



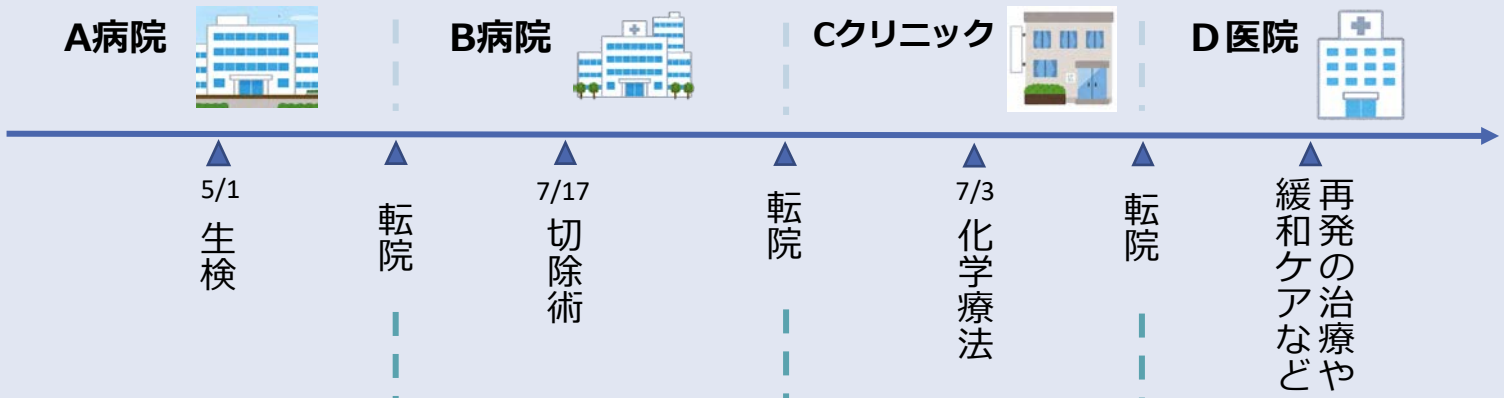
⑫ 治療施設

マニュアル
Ｐ３８

■ 当該がんの初回治療をどの施設で開始、実施したかを判断するための項目です

⑫治療施設	☐ 1. 自施設で初回治療をせず、他施設に紹介またはその後の経過不明
	☐ 2. 自施設で初回治療を開始 ← 経過観察、あるいは治療前に死亡された場合も含む
	☐ 3. 他施設で初回治療を開始後に、自施設に受診して初回治療を継続
	☐ 4. 他施設で初回治療を終了後に、自施設に受診
	☐ 8. その他 ← 死体解剖又はセカンドオピニオン症例の場合のみ選択できます

【例】　A病院診断後、B病院で切除、Ｃクリニックで術後化学療法、再発でＤ医院に転院した場合



A病院は
1. 自施設で初回治療せず他施設に紹介

B病院は
2. 自施設で初回治療開始

Cクリニックは
3.他施設で初回治療開始後、自施設で初回治療継続

Ｄ医院は
4.他施設で初回治療開始後、自施設受診

⑬ 診断根拠

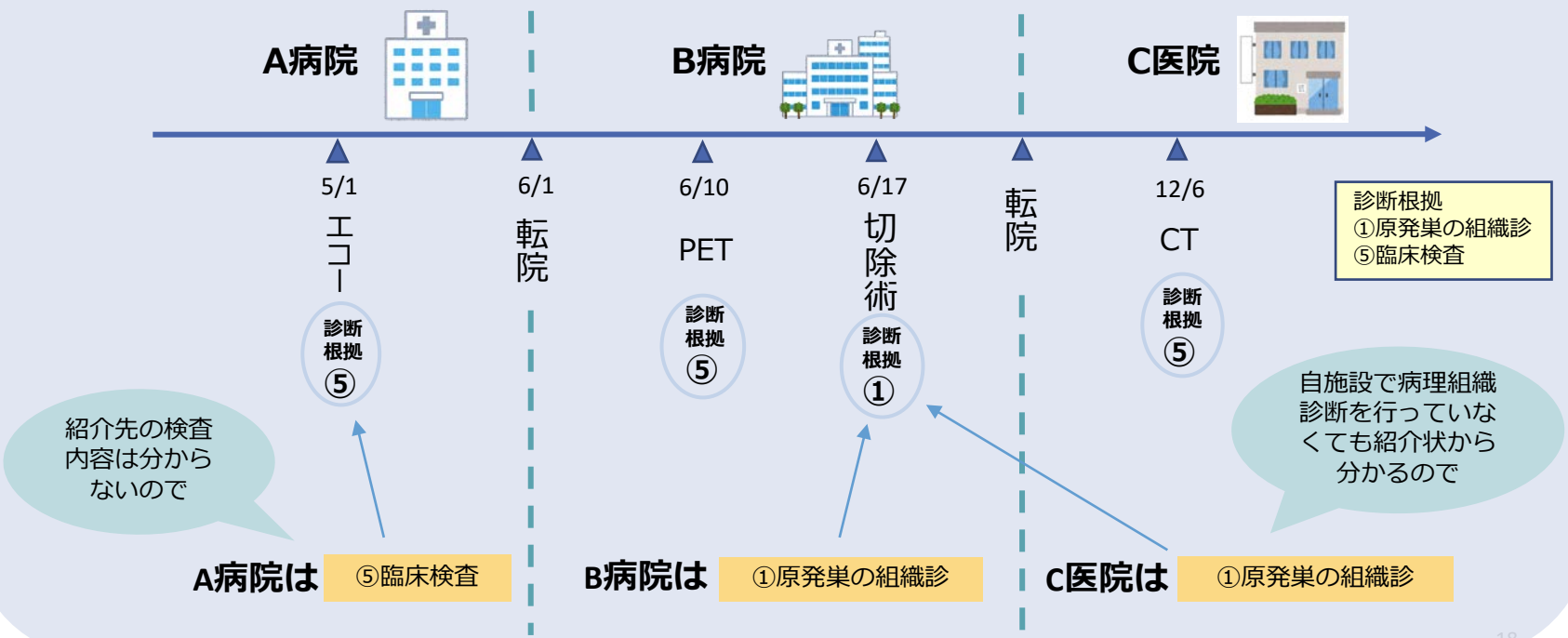
マニュアル
P３９

■ 自施設、他施設に関わらず患者の全経過を通じて、「当該がん」の診断の根拠となった**最も確かな検査**を選択してください

（次ページ参照）➡

	（原発巣の組織診陽性）	（転移巣の組織診陽性）	（細胞診陽性、病理組織診では「がん」の診断無し）	
⑬診断根拠 （最も確かな検査を選択）	☐ 1. 原発巣の組織診	☐ 2. 転移巣の組織診	☐ 3. 細胞診	
	☐ 4. 部位特異的腫瘍マーカー	☐ 5. 臨床検査	☐ 6. 臨床診断	☐ 9. 不明
	（8170/3、9100/3、9500/3、9761/3のみ）	（画像診断も含む）	（1～5を伴わないもの）	

【例】　A病院で診断してから治療目的でB病院、術後フォローでＣ医院に転院した場合



「最も確かな検査」とは

マニュアル
Ｐ３９

■ 以下のうち、最も数字の小さい検査とします

1	原発巣の組織診陽性（病理組織診によるがんの診断）
2	転移巣の組織診陽性（病理組織診によるがんの診断）
3	細胞診陽性（病理組織診ではがんの診断無し）
4	部位特異的腫瘍マーカー
5	臨床検査　（画像診断も含む)
6	臨床診断　（１～５を伴わないもの）
9	不明

診断根拠のコード

⑭ 診断日

マニュアル
Ｐ４０

⑭診断日	□ 0. 西暦	□ 4. 平	□ 5. 令		年		月		日

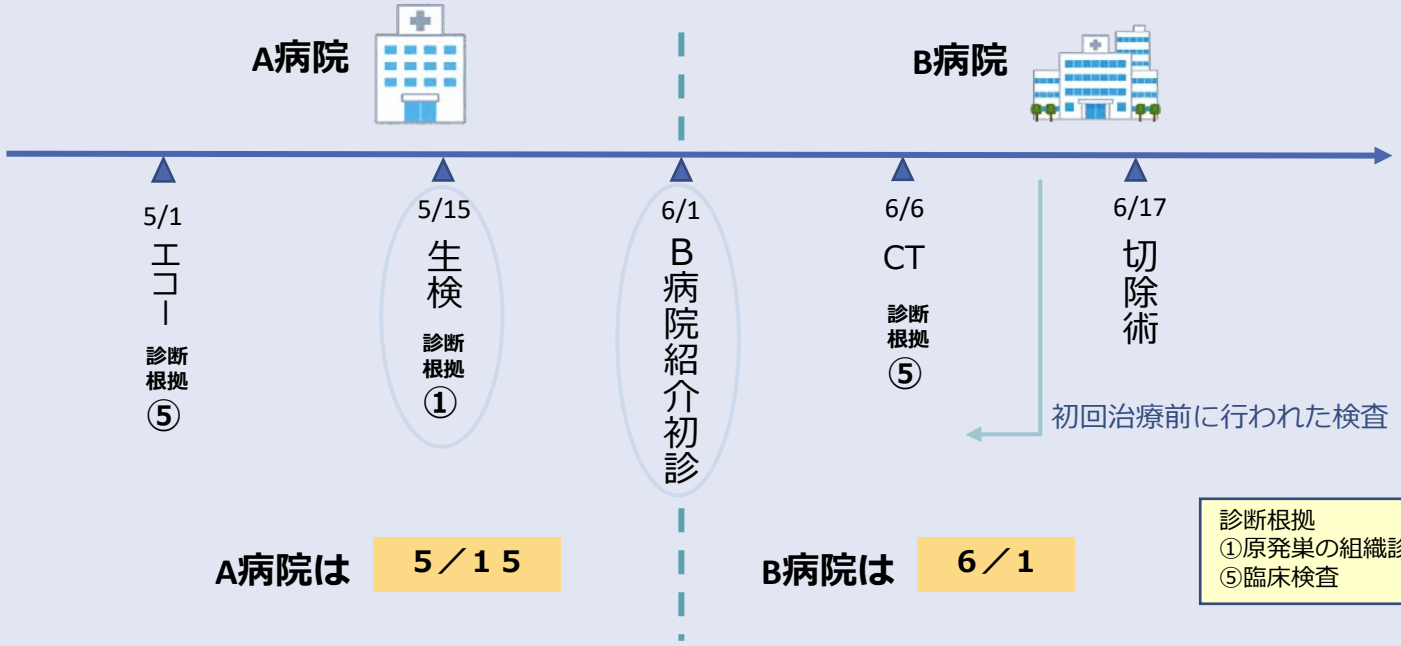
P.19参照

■ 自施設診断のときは<u>最も確かな検査</u>の検査日を入力してください

（最も確かな検査が複数回行われている場合はより早い日に行われた検査の検査日を入力）

■ 他施設診断のときは当該がん患者の自施設初診日を入力してください

【例】　A病院で診断してから治療目的でB病院に転院した場合



診断根拠
①原発巣の組織診
⑤臨床検査

⑮ 発見経緯

マニュアル
Ｐ４１

■ **自施設、他施設を問わず**、当該がんに関して
初めて医療機関を受診した際の状況を選択してください

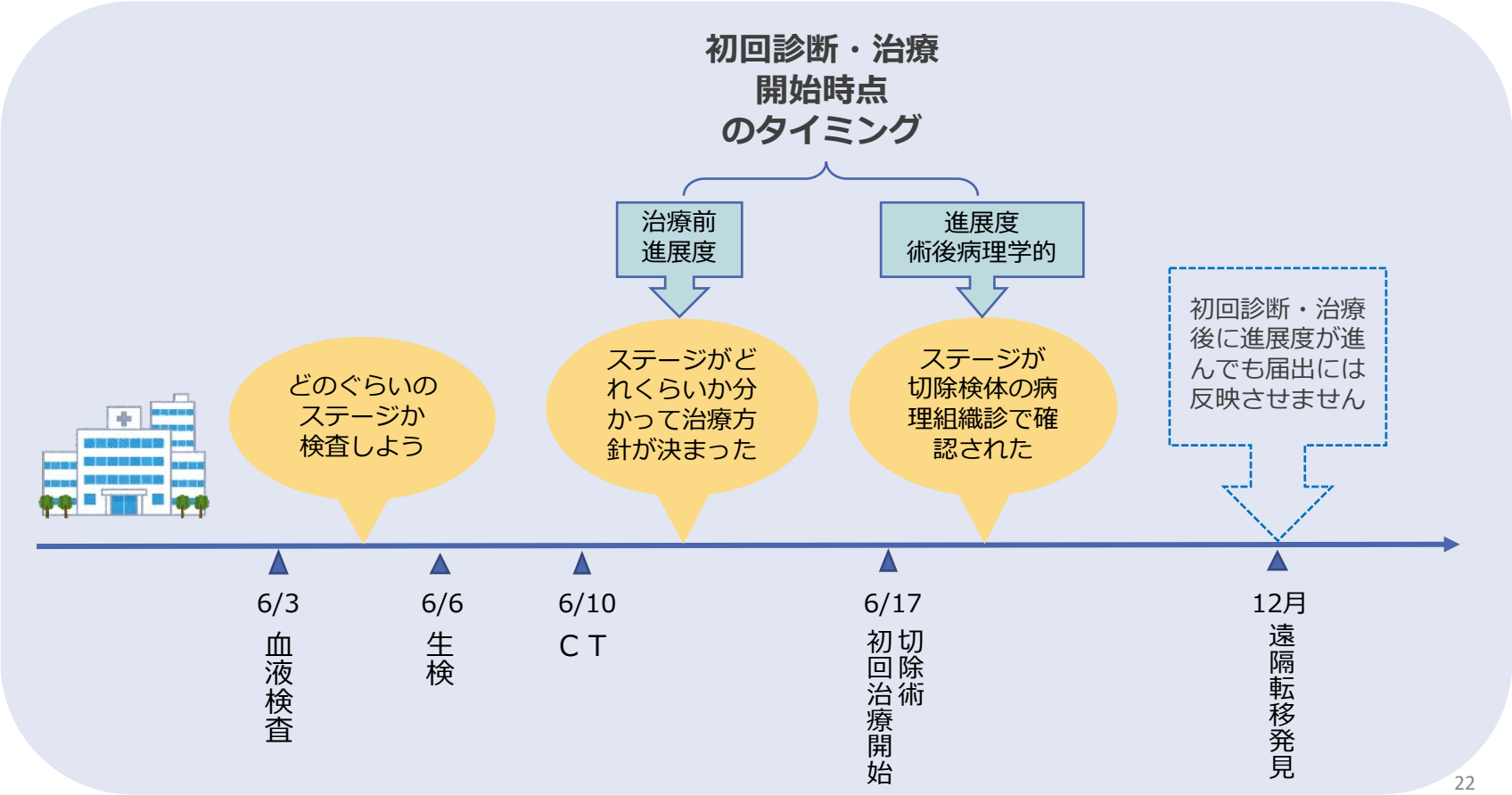
⑮発見経緯 （自施設、他施設問わず）	☐ 1. がん検診・健康診断・人間ドックでの発見例		☐ 3. 他疾患の経過観察中の偶然発見
	☐ 4. 剖検発見	☐ 8. その他	☐ 9. 不明

- がん検診で他施設を受診後、自施設に紹介されても**「1.がん検診」**を選択します。
- がんが疑われたが、そのときには確証が得られず経過観察になり、
その後の受診でがんと診断された場合は**「3.経過観察中」**となります。
- 他のがんのフォローアップ中に別のがんが発見された場合は
「3.経過観察中」を選択します。
- 何らかの**症状**があり、医療機関を受診した場合は**「8.その他」**とします。

⑯ 進展度・治療前 マニュアル P４２

⑰ 進展度・術後病理学的 マニュアル P４３

■治療前と術後のがんの拡がりを選択してください



進展度とは

マニュアル
P２１、P４２、
P４３

悪性リンパ腫及びカポジ肉腫については、上皮内及び所属リンパ節転移に相当する進展度はありません。
限局、隣接臓器浸潤及び遠隔転移の3区分で進展度を評価します。

進展度とは、がんが原発巣からどこまで拡がっているかを分類する最も基本的ながんの病期の分類方法です

区　分		治療前	術後病理学的
400	上皮内	必ずしも自施設の情報に限定されていない 届出項目の概説「進展度について」参照（マニュアルP21）	
410	限　局		
420	領域リンパ節転移		
440	隣接臓器浸潤		
430	遠隔転移		
660	手術なし又は術前治療後	※がん登録ルールでは「胃の上皮内」は限局で登録する。５桁目を３（進展度は「限局」）	・当該がんの手術が自施設で行われなかった場合、適用します。 ・進展度・治療前の診断後、手術の前に初回治療が開始された場合、適用します。
777	該当せず	白血病、多発性骨髄腫(局在コードがＣ42.0又はＣ42.1)の場合、適用します。	
499	不　明	・容易な適用は避けて、進展度区分の判断に必要な情報がない場合に適用します。 ・原発巣が不明(局在コードがＣ80.9)の場合、適用します。 ・項目「発見経緯」が４．剖検発見の場合、適用します。	

※複数の区分に該当する場合は、より高い進展度区分を選択してください。

こんな
場合は…？

【例】　A病院で診断してから治療目的でB病院、術後フォローでＣクリニックに転院した場合

A病院

■ 治療前進展度＝分かれば入力、そうでなければ「499.不明」

■ 術後病理学的進展度＝切除していないので「660.手術なし」

B病院

治療前・
進展度決定

進展度・
術後病理学的決定

Cクリニック

■ 進展度・治療前＝
・自施設で初回治療継続の場合、分かれば入力、そうでなければ「499.不明」
・他施設で初回治療終了後の場合、「499.不明」でかまいません

■ 術後病理学的進展度＝
切除していないので「660.手術なし」

5/3 血液検査

6/6 生検

6/10 ＣＴ

6/17 初回治療 切除術

切除なし

⑱ 外科的治療

マニュアル
Ｐ４４

観血的治療	⑱外科的	☐ 1. 自施設で施行	☐ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明	
	⑲鏡視下	☐ 1. 自施設で施行	☐ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明	
	⑳内視鏡的	☐ 1. 自施設で施行	☐ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明	
	㉑観血的治療の範囲	☐ 1. 原発巣切除	☐ 4. 姑息的な観血的治療	☐ 6. 観血的治療なし	☐ 9. 不明

■自施設で実施された初回治療のうち外科的治療の有無を選択してください

定義

肉眼的視野下の外科的手技による病巣切除術

- 腫瘍の焼灼ではなく、切除の手段としてレーザー等を用いた手術も含む
- 開頭手術における光学機器による視野を用いた病巣切除術も含める
- 「⑫治療施設」で１、４、８を選択の場合、必ず「2.自施設で施行なし」を選択
- 症状の緩和を目的に行われた治療は含まない

⑲ 鏡視下治療

マニュアル
Ｐ４５

■自施設で実施された初回治療のうち鏡視下治療の有無を選択してください

定義

自然開口部（※）以外を介して挿入された光学機器の視野を用いた病巣切除術(ロボット手術含む)

※口腔、鼻孔（腔）、尿道口、肛門、膣口、乳管等

- 胸腔鏡、腹腔鏡による手術の他、皮膚等に切開を加えてカメラを挿入し、その視野を用いて行われる手術(補助下手術)を含む。ただし、開頭手術における光学機器による視野を用いた病巣切除術は「外科的治療」に含める。
- 自然開口部以外を介した光学機器による視野を用いて行われるロボット手術も含む
- 経管腔的内視鏡手術 (NOTES)も含む
- 自然開口部経由であっても、管腔壁(消化管・尿管・産道等)に侵入路を切開等の手技で作成・挿入する場合も含む
- 「⑫治療施設」で１、４、８を選択の場合、必ず「2.自施設で施行なし」を選択
- 症状の緩和を目的に行われた治療は含まない

⑳ 内視鏡的治療

マニュアル
Ｐ４６

観血的治療	⑱外科的	☐ 1. 自施設で施行	☐ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明	
	⑲鏡視下	☐ 1. 自施設で施行	☐ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明	
	⑳内視鏡的	☐ 1. 自施設で施行	☐ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明	
	㉑観血的治療の範囲	☐ 1. 原発巣切除	☐ 4. 姑息的な観血的治療	☐ 6. 観血的治療なし	☐ 9. 不明

■自施設で実施された初回治療のうち内視鏡的治療の有無を選択してください

定義

自然開口部（※）を介して挿入された光学機器(内視鏡)による視野を用いた病巣切除術

※口腔、鼻孔（腔）、尿道口、肛門、膣口、乳管等

- 前立腺癌HoLEP手術のように、内視鏡的視野を用いた場合も含む
- 内視鏡治療後に追加で開腹切除(予定外の開腹)も含む
- 「⑫治療施設」で１、４、８を選択の場合、必ず「2.自施設で施行なし」を選択
- 症状の緩和を目的に行われた治療は含まない
- 自然開口部経由であっても、管腔鏡（消化管・尿路・産道等）に侵入路を切開等の手技で作成・挿入する場合は「鏡視下治療」に含める

㉑ 観血的治療の範囲

マニュアル
Ｐ４７

■自施設での初回治療として行った観血的治療（⑱～⑳）の総合的な結果を選択してください

（内視鏡的な治療を最初に行ったが、その後外科的な追加切除が行われた場合、外科的治療の結果を選択します）

- 腫瘍遺残なし…「1.原発巣切除」を選択
- 腫瘍遺残あり(原発巣の切除を伴わない転移巣切除も含む)…「4.姑息的な観血的治療」を選択
- **自施設で観血的治療⑱～⑳のいずれも行っていない…**「6.観血的治療なし」を選択
- 「⑫治療施設」で１、４、８を選択の場合、必ず「6.観血的治療なし」を選択

原発巣・転移巣を切除し、腫瘍遺残のない場合は、原発巣切除に含める

㉒ 放射線療法

マニュアル
Ｐ４８

その他治療	㉒放射線療法	☐ 1. 自施設で施行	☐ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明
	㉓化学療法	☐ 1. 自施設で施行	☐ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明
	㉔内分泌療法	☐ 1. 自施設で施行	☐ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明
	㉕その他治療	☐ 1. 自施設で施行	☐ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明

■自施設で実施された初回治療のうち放射線療法の有無を選択してください

定義

X線やガンマ線等の電磁放射線あるいは陽子線治療や重イオン線等の粒子放射線によって、腫瘍の縮小又は消失をはかる治療

- 甲状腺 I-131内用療法等の内照射療法も含む
- 分子標的薬と放射線同位元素を組み合わせて両方の作用により、腫瘍の縮小・消失を目的とする治療は「化学療法」と「放射線療法」のいずれにも含める
- 「⑫治療施設」で１、４、８を選択の場合、必ず「2.自施設で施行なし」を選択
- 症状の緩和を目的に行われた治療は含まない

※「症状緩和的」等と記載されていても、腫瘍に対して照射が行われている場合は含める（2019年1月～）

㉓ 化学療法

マニュアル
Ｐ４９

■自施設で実施された初回治療のうち化学療法の有無を選択してください

定義

薬剤による細胞毒性や細胞増殖阻害によって腫瘍の縮小又は消失をはかる治療(投与経路は問わない)
内分泌療法に含まれるものを除く

- 血管塞栓術も併用した肝動脈化学塞栓療法（TACE)のような併用療法の場合、「化学療法」と「その他の治療」の両方に含める
- 血液腫瘍におけるステロイド単剤療法は内分泌療法に含める
- 甲状腺I-131内用療法は、放射線療法に含める
- 免疫療法は、腫瘍細胞に対する宿主の生物学的応答の修飾によって腫瘍の縮小、消失の効果をもたらすものとして、その他の治療に含める
- 「⑫治療施設」で１、４、８を選択の場合、必ず「2.自施設で施行なし」を選択
- 症状の緩和を目的に行われた治療は含まない

㉔ 内分泌療法

マニュアル
Ｐ５０

その他治療	㉒放射線療法	☐ 1. 自施設で施行	☐ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明
	㉓化学療法	☐ 1. 自施設で施行	☐ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明
	㉔内分泌療法	☐ 1. 自施設で施行	☐ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明
	㉕その他治療	☐ 1. 自施設で施行	☐ 2. 自施設で施行なし	☐ 9. 施行の有無不明

■自施設で実施された初回治療のうち内分泌療法の有無を選択してください

定義

腫瘍の増殖を阻止する目的で、特定のホルモン分泌を抑制する薬剤又はホルモン分泌器官の切除により腫瘍の縮小又は消失をはかる治療

- エストロゲン依存性腫瘍に対する卵巣摘出術、前立腺癌に対する精巣摘出術も含む
- 血管腫瘍におけるステロイド単剤療法も含む
- 「⑫治療施設」で１、４、８を選択の場合、必ず「2.自施設で施行なし」を選択
- 症状の緩和を目的に行われた治療は含まない

㉕ その他治療

マニュアル
Ｐ５１

■自施設で実施された初回治療のうちその他治療の有無を選択してください

定義

⑱～⑳.㉒～㉔のいずれにも該当しない機序で、腫瘍の縮小又は消失をはかる治療

- 血管塞栓術、光線焼灼術（レーザー）、電磁波焼灼術（RFA等）、エタノール注入療法（PEIT）等が含まれる
- 免疫療法はその他の治療に含める
- 「⑫治療施設」で１、４、８を選択の場合、必ず「2.自施設で施行なし」を選択
- 症状の緩和を目的に行われた治療は含まない

㉖ 死亡日

マニュアル P５２

■ 届出の対象が届出前に自施設で死亡したときのみ記入してください

■ 届出済みの患者が死亡されたとき、死亡日を追記し
重複して届出をする必要はありません

備　考（欄）

マニュアル P５３

≪備考欄は重要です≫

■ カナ氏名・氏名に関すること
■ 性別に関すること
■ 紹介元・紹介先病院等に関すること
■ 詳細な病理診断に関すること
■ 住所の異動に関すること
■ 既往のがんに関すること
■ 局在部位　など

◎全国がん登録における同一人物の照合に役立つ情報を細かなことでもかまいませんのでお知らせいただけるとありがたいです。